社会福祉法人　関西中央福祉会
平成リハビリテーション専門学校

第６回　教育課程編成委員会　議事録

１．　開催日時　　令和６年３月２２日（金）１８時００分～１８時５０分

２．　会議出席者

樋笠　重和　　（兵庫県理学療法士会　理事）
渡邊　康子　　（兵庫県作業療法士会　理事）
玉井　由美子　（兵庫県言語聴覚士会　阪神南ブロック長）
松本　憲作　　（淀川平成病院　理学療法士）
井上　真一　　（神戸平成病院　言語聴覚士）
田山　大介　　（西宮回生病院　作業療法士）

３．　陪席者

藤本　陽子　　（副校長）
松村　竜誠　　（理学療法学科　学科長）
七谷　倫子　　（作業療法学科　新学科長予定者）
青木　崇　　（言語聴覚療法学科　学科長）
奥田　秀樹　　（事務長）
(欠席)佐平　安紀子　（作業療法学科　現学科長）

４．　会議の場所

兵庫県西宮市津門西口町２－２６　　平成リハビリテーション専門学校内
Web 会議方式にて実施

５．　審議・議題事項

開催にあたり、各委員及び当校役職者の紹介を行う。

続いて今回の議長の推薦をはかったところ、議長を青木学科長、書記を奥田事務長で推薦することを決め議事審議に入る。
会議に先立ち、今年度の国家試験結果発表を行う。

議案１．「臨床実習を考える会」の開催報告

スライドの資料に基づき、藤本副校長より説明を行う。

・前回の第四号議案についての実施結果報告とする。
・本年２月１日に実施
・参加対象者及び交換会の内容
・実習状況説明とグループワーク、内容の説明
　・他校と比較して実習指導で困っていること
　・学生の実習受け入れ態勢において困っていること
　・当校への要望など
・グループワークを通しての意見の内容報告
・今後については
　・対象者を広範囲に広げて参加して頂く予定
　・年２回開催を目標にする
　・対象者に応じたミニレクチャー、情報提供

委員より各内容についての意見

・実習において最近は症例報告書を必要としない状況
・レポートを義務付けていない学校が増えてきている
・カンファレンスでの報告書作成、転院・退院などのサマリー作成のまとめる経験がない状態で学生が就職し現場にでることに不安を感じる
・以前と比較すると膨大なページ数とせず、レジュメ程度にしている傾向
・文章のまとめる力を養う必要が有る
・診療参加型と症例報告書型とのメリットとデメリットがある
・レジュメ作成はいいのであるが統合と解釈でのつまずきが出た際の学生負担軽減が必要
・ある程度の雛形を学生に参考として提供することも一案
・ST ついては症例報告書がないところを聞いたことが無いので驚きである

当校教員より委員へ下記の点、アドバイスを頂く。

・初期評価から効果判定が最終目的であるが、臨床参加型だと一連の過程がわかりずらいので、なにか現場で工夫が有ればどのように実施していくべきか。

委員より質問についての意見

・他の患者症例も参考にす

議案２．　市民公開講座の開催について

スライドの資料に基づき、藤本副校長より説明を行う。

・今回実施は初めてであり４月 27 日に実施予定
・市民への校名周知と地域貢献目的
・講師予定　加藤作子「やさしい手と思いやりのこころ」
・職業理解としての場とも考えている
・外部からの意見も頂けると、今後の参考に

委員より各内容についての意見

・人手不足の現状、学校における医療職の発掘期待の役割

藤本副校長より次回委員会開催予定の説明と参加のお願いを行う。

以上をもって各審議・報告事項を終了する。